

ステンレスコートの塗装用具・塗装方法について

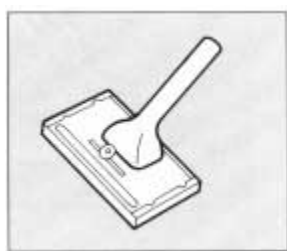
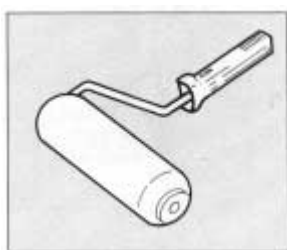
ステンレスコートを塗布する際の塗装道具や塗装方法(刷毛塗り・スプレー塗布)についてご説明させていただきます。尚、用具は用具メーカーの説明書をご覧になって使用ください。

塗装用の用具について

塗装用のハケには、形状によって、

(1)平バケ(一般用)(2)スジカイバケ(細部用)(3)ずんどうバケ(広範囲用)

などの種類があります。 * 油性用を使用してください。

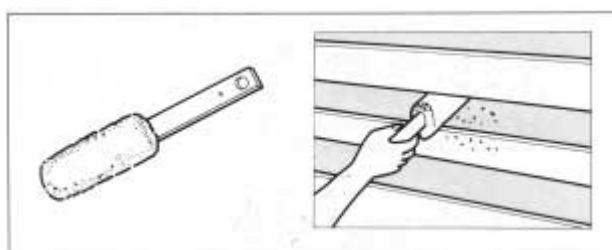


ローラーバケ

塗装面に凸凹がある場合に便利。広い部分を一気に、短時間で仕上げます。

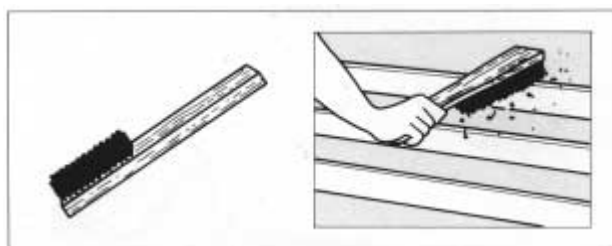
コテバケ

塗る部分が平面なので、塗りむらやハケ目が出ません。広い面積を塗るのに最適。



ベンダー

幅の狭い隙間など、ハケやコテでは塗りにくいところに最適。
隙間塗り用のハケです。

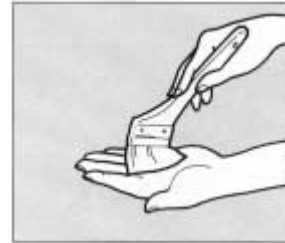


ワイヤーブラシ

塗装面のサビ落としや、はがれかかった古い塗膜落としなど、下地調整の際に使用します。
鉄製と真ちゅう製の2タイプがあります。

■ハケをおろしたときの注意点

おろしたてのハケは、抜け毛を取り除いておくことが大切です。そのままにしておくと、塗装面に抜け毛がついてしまいます。手のひらで軽くしごいてから、指先で引き抜くようにして取り除いてください。



■塗料の含ませ方

ポイントは、毛の部分全体に含ませるのではなく、毛先の3分の2くらいに塗料をつけること。また、柄の部分には塗料をつけないように注意しましょう。塗るときは、缶の中で毛先を軽くしごいてください。



ハケの後始末と保管法

使い終わったハケは、すぐに塗料を洗い流しましょう。キシレン系シンナー液でまず下洗いをして、そのあと中性洗剤で洗い流します。

コテバケやローラーバケも処理は同じです。洗い終わったハケはハケ部分を上にして陰干しします。保管方法は、陰干ししたあとビニール袋で密閉し、中に乾燥剤を入れておきます。

その他の道具類

マスキングテープ・シート

塗料を塗りたくない箇所に貼るテープや床面の汚れを防止するシートです。

サンドペーパー

下地調整に欠かせない紙やすり。粗目から細目まで豊富にあります。

ウエス(布)

余分な塗料や汚れを拭き取るときに必要。

エアースプレーガン・塗料カップ

低粘度・金属塗装・油性塗料用をご使用下さい。 推奨:低圧・上塗り用/ アネスト岩田製

塗装の仕方「①前処理」



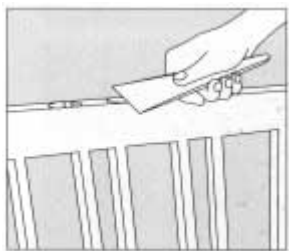
汚れを落とす

雨水や泥などで汚れているもの。よく水洗いし、乾いてから塗りはじめます。
油汚れなどある場合は、アルカリクリーナーや脱脂剤(ソルベント・シンナー)にて汚れを処理してください。



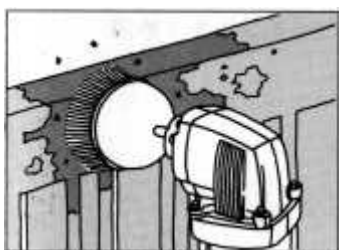
サビを落とす

サビの部分は、ワイヤーブラシ、サンドペーパー耐水ペーパーなどでサビを落とします。



浮き上がった古い塗膜をはがす

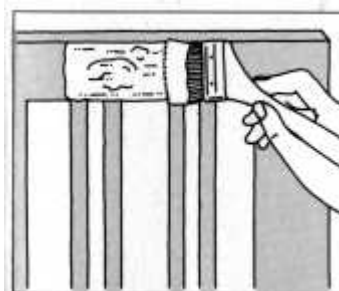
スクレーパーや皮スキなどで、前に押し出すようにして塗膜をはがします。



サビ落とし部分が多いとき

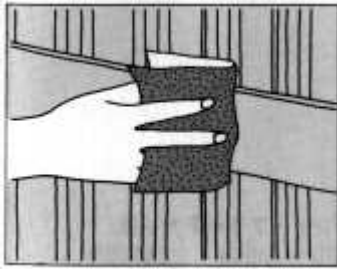
電気ドリルやディスクグラインダー にワイヤーカップブラシを取り付けて使用すると、効率よくサビ落としができます。

※使用するときには、防じんメガネを必ず着用してください。



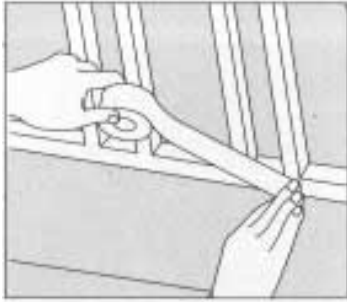
古い塗膜をはがしたい場合

きれいに古い塗膜をはがしたい場合は、塗料はくり剤を塗り、2-3分おいてスクレーパーなどでかき落とし、最後にペイントうすめ液で拭きます。



全体にサンドペーパーをかける

古い塗膜がしっかりしている 面もサンドペーパー(#150)やスチールウールをかけておくと、塗料のくいつきがよく、はがれにくくなります。



マスキング

塗料しない所は古新聞やマスキング テープを使ってマスキングします。
また地面などにも養生シートを敷いて塗料がたれてもいいようにおきます。

塗装の仕方「②スプレー」

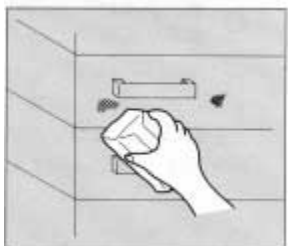
スプレー塗装は、手塗りでは仕上げにくいものに最適です。

複雑な形状やカーブのあるものに、大きな面積を塗布する場合に早くできます。



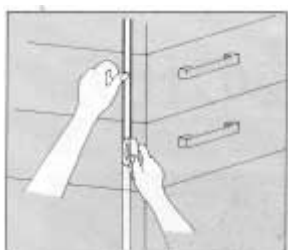
汚れやサビを落とす

第一に塗装面の汚れやサビを落とすことがかんじんです。たとえ小さなゴミでも、そのままスプレーしてしまうと、塗料が乾いたあとに小さな突起となって目立ってしまいます。



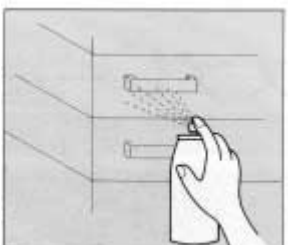
下地の調整

塗料のくいつきをよくするために、サンドペーパー・耐水ペーパーなどで下地調整を十分に行ってください。この作業が、仕上がり具合に大きく影響します。



マスキングする

塗り始める前に、マスキングを必ずしましょう。塗装する場所と、そうでない場所を、マスキングテープを使ってへだてます。広い面積は、新聞紙やビニールシートを張ると便利です。



スプレーする

きれいに仕上げるポイントは、一度に塗ってしまわないで、薄く何回かに分けて塗ること。塗料を垂らさないためにも、薄めに重ね塗りをするようにしてください。



缶をよく振る

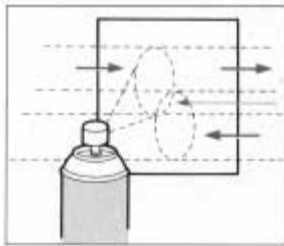
スプレー缶のなかの塗料を十分に混ぜ合わせます。缶のなかに入っている「かくはん玉」がカラカラと音を立ててから、30秒ぐらいは振るよう to してください。



スプレーは 20～30cm の距離から

スプレーする位置が近すぎると、塗料が垂れます。

きれいに仕上げるためには、20～30cm くらい、離してかけるのがコツ。



スプレーはスムーズに

塗りむらの大きな原因は、スプレーするスピードが一定していないこと。

スプレーは、左右を往復するようにして、スムーズに行いましょう。

十分なマスクング

スプレーの霧は、意外に広い範囲に飛び散るものです。

スプレーするときには、できるだけ広範囲をマスクングするべきです。また、マスクングテープは塗り終わったらすぐにはがさないと、境目の塗料 がいっしょにはげてしまいます。

作業は天気のよい日に

風が強いと塗料が飛び散り、雨の日は乾きにくく、夏の炎天下や極端に気温が低い日は、塗料がうまくなじみません。作業は、穏やかな日を選びましょう。

ボタンは目いっぱい押す

スプレーボタンを中途半端に押すのも塗りむら、タレの原因。ボタンは根元までしっかり押しましょう。もしむらができたら、乾いてから もう一度スプレーすれば、きれいに仕上がります。

《エアースプレーガンでの塗装》

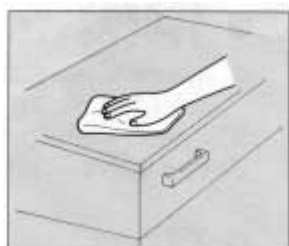
エアースプレーガンは、低粘度・金属塗装・油性塗料用をご使用下さい。

噴霧飛散が少ない低圧タイプで、上塗り用をお勧めいたします。

一度に厚く塗らないで2～3回に分けてムラなく吹き付けることがコツです。

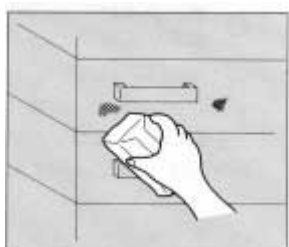
塗装の仕方「③刷毛塗り」

刷毛塗装は、刷毛の種類を選定できることから、細部や複雑な形状のあるものに塗布することができます。広い面積から・細部まで対応できます。



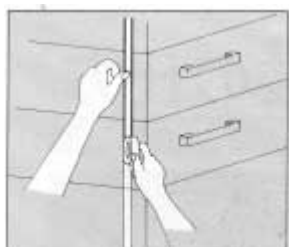
汚れやサビを落とす

第一に塗装面の汚れやサビを落とすことがかんじんです。たとえ小さなゴミでも、そのままスプレーしてしまうと、塗料が乾いたあとに小さな突起となって目立ってしまいます。



下地の調整

塗料のくいつきをよくするために、サンドペーパー・耐水ペーパーなどで下地調整を十分に行ってください。この作業が、仕上がり具合に大きく影響します。



マスキングする

塗り始める前に、マスキングを必ずしましょう。塗装する場所と、そうでない場所を、マスキングテープを使ってへだてます。広い面積は、新聞紙やビニールシートを張ると便利です。



塗料をよく混ぜる

使う前に棒などで容器の底まで十分に混ぜ合わせます。
塗料が固くてかき混ぜ難い場合は、攪拌機をお使い下さい。

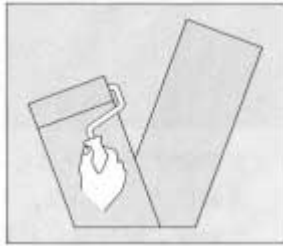


塗りにくい部分を先に塗る

塗料は、細部の塗りにくいところや周囲から始めます。

平バケで、ていねいに塗ってください。

塗料のつけすぎに要注意。



ローラーバケで全体塗り

広い場所は、ローラーバケやコテバケを使うと作業がはかどります。

下地が凸 凹している部分は、押さえつけるように塗ってください。

《シンナーについて》

用具の洗浄や塗装ミスの修正液については、キシレン(キシロール)系シンナーにて洗浄を行ってください。

又、ステンレスコートは金属粉分散塗料ですので希釈は出来ません。

希釈すると金属粉がうまく分散しないことから、希釈液の使用は出来ません。